

下北地域九条の会 第5回定期総会

全野党の結集で自公政権からの脱却へ向けて全力を！

下北地域九条の会は4月25日午後1時半より、むつ市立図書館で第5回定期総会を開催しました。昨年は緊急事態宣言下で開催が見送られたため2年ぶりの総会です。本年も依然として続くコロナ禍もあり20名弱の参加にとどまりましたが、過去2年間の活動を総括し、向こう1年間の活動方針を確認しました。

総会は木下共同代表の「確実に今秋までには実施される総選挙では菅内閣打倒へ向けた立憲野党の結集」を訴える開会挨拶で始まりました。

設立以来続けてきた毎月9日のマエダ本店前の街宣活動が55回を数えたことや改憲発議反対署名が2,640筆となったことが報告されました。

活動方針としては地域活動の強化、学習会や講演会の実施、会員拡大などの組織強化が提起されました。議案は満場一致で全議案が確認されました。

総会後はビデオ学習会「憲法改定・緊急事態条項に潜む危険性」を鑑賞し、当時の世界で最も民主的憲法と言われたワイマール憲法下でヒトラー独裁政権が誕生した歴史を学びました。

《選出された新役員》

- ・共同代表 木下 千代治
- ・共同代表 畑 中 浩 美
- ・事務局長 村 上 準 一
- ・事務局員 小笠原 富久子
- ・事務局員 篠 崎 俊 二
- ・事務局員 栗 橋 伸 夫
- ・会計監査 野 坂 孝 雄

※いずれも再任



主催者を代表してあいさつする木下千代治共同代表

《総会における木下共同代表のあいさつ要旨》

「政権交代の大義の下に」結束、自公政権の転換を

2021年度第5回下北地域九条の会総会に当たり、代表して開会にあたってのご挨拶を申し上げます。下北地域九条の会も創立以来第5回目の総会を迎えますが、新型コロナ禍の中においても、会員のみなさんの献身的なご協力に深い敬意と感謝を申し上げます。

私たちはこれまで「改憲発議に反対する全国緊急署名運動」に組織の全力を傾注し、活動を展開してきました。この署名運動を通じて、1市1町3村地域における市町村民層の多様な声と向き合うことができました。

その声は「戦争の悲惨から憲法改正反対、国を守るための自衛隊の必要から憲法改正に賛成、署名意思の保留」等々でありましたが、今後の運動課題として、この声に耳を傾け、憲法を守り生かす理論のきめ細かな対応を考える必要性を痛感するものであります。丁寧な理解と説得の手法の理論武装を深め、対話型の署名行動を心掛けて行く必要があると考えます。

今日は4月25日、自民党菅政権が問われる重要な日であります。国政の三選挙の投票日です。参院広島再選挙・参院長野補選・衆院北海道2区補選です。この三つの選挙の結果が今後

の「野党共闘時代」を築く大義を背負っているからです。願わくは勝利への道を信ずるものであります。

憲法をめぐる今日の情勢は、自民党改憲4項目・憲法改正に繋がる「憲法改正手続きを定める国民投票法の改正」・憲法九条を免れる敵基地攻撃能力の保有などに見られる動きが、自民党改憲戦略として動き出しています。事態は緊急であると言わなければなりません。

いま、政治が果たすべき課題は、新型コロナ対策をはじめ課題は山積しています。世論の多くは戦争に繋がる改憲など望んでいません。市民と野党の共闘で改憲発議を許さない運動の一層の強化、自公政権に代わる立憲政権をめざし、菅自公政権の退陣を即刻求めるものであります。

総選挙は目の前に予定されています。立憲野党共闘の重要性が市民層の中から強く叫ばれています。今日の三つの国政選挙の結果において野党共闘の真価が問われます。勝利を確信し、次期総選挙に「政権交代の大義の下に」結束し、自公政権の転換を果たさなくてはなりません。希望ある政治の実現に向けて団結し頑張りましょう。



「むつ・下北地域の医療を考える会」結成、

結成に先立ち大竹進医師(市民連合あおもり共同代表)を迎え、学習会を開催しました

むつリハビリテーション病院の民間移譲、厚生労働省が推し進める地域医療による病床削減計画など、むつ下北における地域医療は重大な局面を迎えようとしています。新型コロナが蔓延するなかで地域住民のいのちと健康を守る医療体制はどうあるべきかを考えようと標記の会が4月21日に結成されました。会の代表は2名の共同代表制で当会の目時代表と大山松子さんが選出されました。今後は賛同する組織から事務局メンバーを募りながら、様々な意見を積み上げ、必要に応じて下北医療センター

ターへの申し入れや市民を対象に医療学習会をきめ細やかに開催することとしました。

当日は下北文化会館で、会の結成に先立ち、青森市で整形外科を開院する大竹進医師を講師に『むつ下北の医療を考える～むつリハビリテーション病院の民間移譲で住民のいのちは守れるのか』と題して学習会を開催しました。学習会には50名近い参加者があり、身近なテーマでもあり会場からの質疑も数多く出され予定時間をオーバーして開催されました。



下北で「地域医療を考える会」が発足
提言申し入れ目指す

むつリハビリテーション病院の民間移譲や、むつ総合病院の新病棟建設などが控える下北地域で21日、「むつ下北の地域医療を考える会」が発足した。勉強会などを行い、下北医療センター管理者の宮下宗一郎むつ市長への提言や申し入れを行う。

工藤祥子市議が呼び掛け人となり発足した。同日は同市の下北文化会館で初の学習会が開かれ、青森市浪岡の大竹整形外科と佐井村のさいクリニック院長の大竹進医師が、下北の医療環境について解説した。

(松橋広幸)

下北地域の医療体制について解説する大竹進医師21日、むつ市

2021/4/22 デーリー東北

【むつリハビリテーション病院をめぐる経過】

新聞報道より

むつリハビリ病院 民間に無償移譲へ 存続、医療水準向上狙い

下北医療センターは9月29日、むつ市のむつリハビリテーション病院の施設や資機材を民間医療機関に無償で移譲する方針を明らかにした。2022年度から事業者が運営を始められるよう準備する。背景には医師確保や施設老朽化などの課題があり、民間移譲によって地域の病院存続、医療水準の向上に繋がりたい考え。

むつリハビリ病院は、下北地方の慢性期医療を担っている。診療科は内科とリハビリ科。療養病床が120床あり、同センターからの指定管理を受け、むつ下北医師会が運営している。同センターによると、医師は3人を配置しているが、うち2人は60代以上で、新たな医師確保も難しい状況。主要な建物は完成からおよそ40年が経過

し老朽化が進んでいる。施設維持や病院の赤字穴埋めのため、同センターが毎年1億円程度を支出している。

事業者は公募で決める。患者の引き継ぎ、医師・医療スタッフの継続雇用などの条件を定める。移譲後10年間の運営を義務づけ、外来診療など医療サービスの内容も提案してもらう。20～21年度で、条例案の提出や事業者選定手続きを進める。

むつ市の下北文化会館で開かれた同センター定例議会で、管理者の宮下むつ市長は「下北地域の医療と、住民の健康を守るための民間移譲。地域にとってなくてはならない病院を存続させ、医療水準がさらに向上するよう取り組みたい」と述べた。(2020/9/30 東奥日報)

むつリハビリ病院 民間移譲後に市2税を免除

むつ市は2月24日、下北医療センターが民間移譲を目指すむつリハビリテーション病院について、移譲後の固定資産税、都市計画税を10年間免除する条例案を市議会に提出した。民間事業者負担を抑え、参入を促す狙い。

むつリハビリ病院は、むつ下北医師会が医療センターから指定管理を受け運営している。現在は地方公共団体の医療センターが不動産を所有しているため、固定資産税と都市計画税が非課税となっている。

医療センターは病院存続や医療水準向上を図るため、むつリハビリ病院の施設や資機材を民間医療機関に無償で移譲し、2022年度から事業者が運営を始められるよう準備を進めている。移譲に向け、下北医療センターからの要望を受けて市が条例案を提出した。条例案では申請に基づき、民間移譲後に課税が始まる23年度から10年の課税免除を定めている。(2021/2/25 東奥日報)

共同代表に日時社民フォーラムしもきた代表が就任

唯一の慢性期病院に民間移譲計画

下北の 地域医療守れ

青森県の一部事務組合下北医療センターが進める、むつ市の「むつりハビリテーション病院」の民間移譲計画に対し、地域の住民が命と暮らしを守るために会を結成し、立ち上がっています。

同病院は、2002年に国立療養所大湊（おおみなと）病院から、むつ市に移譲され開院しました。06年に指定管理者制度に移行後、同医療センターと、むつ市医師会が管理運営し、下北で唯一の慢性期医療機関として利用されています。

むつ市の公立・公的の病院と九つの診療所があり、開業医は数えるほどです。しかし、昨年9月末、同医療センターの管理者である宮下宗一郎むつ市長が、医師確保や施設の老朽化、増える財政負担を理由に、民間移譲することを表明しました。移譲条件として▽現在の利用者を引き継ぐこと▽勤務継続を希望する職員の採用▽10年間の診療機能の継続▽土地、建物、医療機器などの無償譲渡―など6項目を提示。すでに公算説明会や現地見学会が行われています。

住民が「会」づくり行動

4月21日には、「むつ下北の地域医療を考える会」が結成されました。事務局の工藤祥子さん（日本共産党むつ市議員）は、「下北は医療過疎の地域です。民間移譲は市民にとって突然の発表でした。決まったからといって終わりにさせない。みんなで学び、運動を広げましょう」と呼びかけました。

民間移譲だけではなく地域医療構想による病床削減計画など、下北地域の医療を守る活動方針を確認。元むつ市議の目時睦男さんと地元で活動する大山松子さんの2人が代表に選出されました。

会の結成に先立ち、医師の大竹進・市民連合会からも共同代表が講演。会場から「医療、教育、鉄道は市場原理に任せてはいけない。住民の命と暮らしを守るために声を上げていきたい」と、むつ下北地域の医療を守る決意が語られました。



むつりハビリテーション病院

長年の地域医療への貢献に贈られる赤ひげ大賞。その功労賞を受賞された大竹進さん。4月10と11日はちょうど「さいクリニック」で診療。コロナ下で東京での表彰式には参加できなかったが、賞状と日本医師会のゆるキャラ「日医くん」が届きました。ドクターは「佐井村のみなさんのおかげです」とほんとうにうれしそうでした。ドクター、おめでとうございます。



学習会とは直接関係ありませんが、大竹進医師が「赤ひげ大賞・功労賞」を受賞した際の写真です。（佐井クリニックをサポートしているM氏のFacebookより転載しました）

こんなに低い青森県の平均寿命！特にむつ市の男性は全国ワースト4位！

《全国平均寿命ワースト20区市町村》

◆2015年度全国自治体別平均寿命表（厚生労働省調べ）

順位	男							女								
	都	道	府	県	市区町村			平均寿命	都	道	府	県	市区町村			平均寿命
1	大	阪	府	大	阪	市	西成区	73.5	大	阪	府	大	阪	市	西成区	84.4
2	大	阪	府	大	阪	市	浪速区	77.5	大	阪	府	大	阪	市	西成区	85.1
3	青	森	県	東	津	市	平内町	77.6	北	福	島	西	白河郡	西郷村	85.2	
4	青	森	県	北	津	市	軽井沢町	78.1	青	森	県	東	津	市	蓬田村	85.2
5	青	森	県	北	津	市	軽井沢町	78.1	岩	手	県	金	石	市	浪速区	85.3
6	青	森	県	北	津	市	軽井沢町	78.1	大	福	島	大	阪	市	速野町	85.3
7	青	森	県	北	津	市	軽井沢町	78.1	大	福	島	大	阪	市	速野町	85.3
8	青	森	県	西	津	市	深浦町	78.1	青	森	県	大	阪	市	速野町	85.4
9	青	森	県	西	津	市	深浦町	78.1	青	森	県	大	阪	市	速野町	85.4
10	大	阪	府	大	阪	市	大正区	78.2	大	阪	府	大	阪	市	速野区	85.4
11	神	奈	川	川	崎	市	川崎区	78.2	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.4
12	青	森	県	南	津	市	大鰐町	78.3	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.4
13	青	森	県	南	津	市	大鰐村	78.3	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.5
14	青	森	県	南	津	市	大鰐村	78.3	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.5
15	青	森	県	南	津	市	大鰐村	78.3	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.5
16	青	森	県	南	津	市	大鰐村	78.3	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.5
17	青	森	県	南	津	市	大鰐村	78.3	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.5
18	青	森	県	南	津	市	大鰐村	78.3	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.5
19	鹿	児	島	奄	美	市	七戸町	78.4	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.5
20	鹿	児	島	奄	美	市	七戸町	78.4	青	森	県	南	津	市	藤崎町	85.5

なんと、むつ市男性は全国1800近い自治体のワースト4位です。またワースト20までに左記の自治体が入っています。

表にはありませんが大間町男性は25位、風間浦村男性は40位、東通村男性は42位となっており下北男性は全てワースト50位に不名誉な名前が連なっています。

決して地域医療の貧困とは無縁とは言えないのではないのでしょうか。

県内および下北地域の医療従事者数

（平成30年末現在）

		医 師			歯 科 医 師			薬 剤 師		
		実数	人口10万人 人 当 た り	1人当た り人口	実数	人口10万人 人 当 た り	1人当た り人口	実数	人口10万人 人 当 た り	1人当た り人口
県 計		2,712	214.7	466	740	58.6	1,707	2,306	182.6	548
地 域 別 内 訳	津 軽 地 域	917	324.9	308	177	62.7	1,595	570	201.9	495
	八 戸 地 域	591	188.3	531	194	61.8	1,618	528	168.2	595
	青 森 地 域	709	235.9	424	193	64.2	1,557	737	245.3	408
	西 北 五 地 域	171	137.5	728	58	46.6	2,145	167	134.2	745
	上 十 三 地 域	222	129.8	770	90	52.6	1,900	215	125.7	795
	下 北 地 域	102	144.5	692	28	39.7	2,521	89	126.1	793
下 北 地 域 内 訳	む つ 市	93	166.8	599	25	44.9	2,230	82	147.1	680
	太 間 町	6	122.7	815	1	20.5	4,889	4	81.8	1,222
	東 通 村	2	32.2	3,107	1	16.1	6,214	3	48.3	2,071
	風 間 浦 村	1	56.1	1,782	-	-	-	-	-	-
	佐 井 村	-	-	-	1	51.1	1,956	-	-	-

相変わらず「むつ中間貯蔵施設共同利用問題」がくすぶり続けます

原子力規制委員会は3月24日の定例会で東電柏崎刈羽原発のテロ対策設備の不備が長期間続いた問題に法令違反があったとして、東電に原子炉等規制法に基づき、同原発内の核燃料の移動を禁じる是正措置命令を出す方針を決めました。事実上、同原発を運転禁止状態にする措置です。核燃料の異動も禁止するとされています。当然、この措置には使用済み核燃料も含まれるものと思われます。この問題はむつ施設への搬入元とされる原発であるために仮に施設が操業可能になったとしても実質的に搬入が不可能となるのではないかと思います。相手側の失策による成果です。さらに日本原電については水戸地裁が3月18日、東海第二原発について避難計画などを問題視して再稼働を認めない判決を下しました。すなわち、こちらも実質唯一の原発が稼働不能となれば使用

済み核燃料のむつ搬出は現実的ではありません。膨大な費用と労力を消費するというリスクを抱えて当地まで使用済み核燃料を搬送する必然性がなくなりました。

しかし、喜んでばかりもいられない気がします。東京電力および日本原電の使用済み核燃料が実質搬入不能となれば、必然的に『むつ施設の共用化』が現実味を帯びてきます。搬出先がなくて困っている関西電力、搬入元がないと事業が成立しないRFS社、両者の思惑がますます一致してきます。当然、搬入核燃料に対するむつ市の「核燃料税」構想にも大きなズレが生じてきます。現にむつ市議会特別委員会では核燃料税交渉でRFS社の当事者能力を疑問視し、直接、親会社である東電を交渉に引きずり込むべきとの意見が出始めています。何とも厄介な話です。

使用済み核燃料搬出先、決まらぬまま…福井県知事の再稼働同意！

関西電力などが当市の中間貯蔵施設を共同利用する案は、運転開始から40年を超えた関西電力の原発3基について、同社が立地の福井県から再稼働の同意を得るための回答でした。

福井県は1990年代から、原子力事業者の使用済み核燃料を県外搬出させる方針を打ち出しています。関西電力は搬出先として県外の中間貯蔵施設を「2010年ごろに稼働」「18年に計画地点を示す」などと約束していましたがこれまで果たせず、福井県は2020年末までの回答を求めています。関西電力の森本孝社長は今年2月、杉

本知事に「選択肢の一つ」としてむつ共用案を報告。23年末を期限として確定させるとした。これを杉本知事は「一定の回答があった」と受け入れました。県議会では「むつ共用案は見通しがつかない」などの批判もありましたが23日に自民会派などの賛成で40年超原発の再稼働に事実上同意し、杉本知事の最終判断を残すのみとなっていました。4月28日同意を表明しました。3基が再稼働し福井県内の関西電力の原発7基がフル稼働すれば各原発の核燃料プールは5～9年分の余裕しかない状況です。

関西電力原発の使用済み核燃料プール (全て福井県)	中間貯蔵施設 (青森県むつ市)
約3400トンを保管	貯蔵容量は3000トン
プール満杯までの期間は？	電力各社の 共用で 搬出検討
美浜3号機 9年程度	
大飯3、4号機 8年程度	
高浜1～4号機 5年程度 (全て順調に稼働した場合)	
	■東京電力と日本原子力発電の原発の使用済み核燃料の保管先
	■2021年度操業予定



老朽原発 うごかさないで！

東電 中間貯蔵共用案めぐり 「何も決まってるない」

むつ市で建設されている使用済み核燃料中間貯蔵施設の共同利用を検討したいとの方針を大手電力で作る電気事業連合会が示したことに伴って、東京電力ホールディングスの宗一誠常務執行役は26日、「地元の問題が大前提で何も決まっていない」との立場を強調した。

テロ対策の不備など新潟県の柏崎刈羽原発で相次いだ不祥事の説明に市役所を訪れた宗氏は、宮下宗一郎市長に謝罪。中間貯蔵施設を運営するリサイクル燃料貯蔵(RFS)の親会社として共同利用への認識を問われ、「地元の理解が大前提で何も決まっていない。共同利用ありきのスタートラインに立つ前の段階だ」と理解を求めた。

青森事業本部長を務める宗氏は、県庁でも柏木司副知事に柏崎刈羽原発での不祥事を陳謝。青森事業本部でも業務の点検、見直しを進めていることを報告した。(安田琢典、土肥修一)

東電の原発から出た使用済み核燃料の施設への搬入時期について「原発の稼働などが見通せず、毎年200～300トン搬出する当座の計画は困難」などと答えた。

市が中間貯蔵事業への課税をめざす市独自の核燃料税をめぐり、RFSは事業が立ちゆかなくなるとして減免を申し入れている。東電としての姿勢を問われた宗氏は「親会社として助言をしている」と述べるにとどめた。



「東北の核燃料、福井なら受け入れるのか」 関電の使用済み核燃料はどこへ？

福井県に立地する関西電力の原発から出る使用済み核燃料を巡り、関電が搬出先の「選択肢の一つ」とする中間貯蔵施設のある青森県むつ市の宮下宗一郎市長（41）が26日、オンラインで本紙のインタビューに応じた。宮下市長は関電などの使用済み核燃料を受け入れることについて「可能性はゼロだ」と明言し、協議の余地はないとの姿勢を強調した。

「東北から福井に要らない使用済み核燃料を出すと言ったら皆さんはどう思う」。本紙のインタビューに応じた青森県むつ市の宮下宗一郎市長はざっくばらんな語り口で問いかけ、むつ市として福井県内の関西電力の原発から出た使用済み核燃料を受け入れないことに理解を求めた。1問1答は次の通り。

（2021/4/27 東京新聞デジタル記事より）

【Q】電気事業連合会がむつ市の中間貯蔵施設の共用を検討すると表明して4カ月になる。

【A】今は何も考えていない。何も動きはない。

【Q】福井県では40年超原発の再稼働を巡り、むつ市の施設の共用を前提に議論が進められた。

【A】いやそうは思っていない。杉本達治知事は中間貯蔵施設のことを「切り離して考える」と発言した。もう私たちとは関係ない論点で物事が進んでいると考えている。別の問題だ。

【Q】福井県は使用済み核燃料を県外に出すという長年の政策もある。対立しないか。

【A】県の政策、シナリオが正しいのか福井で議論すべきではないか。議論しないまま、むつ市に話を持ってこられても困る。それがこの問題の核心だ。

【Q】東京電力と日本原子力発電の中間貯蔵施設を受け入れた経緯は。

【A】20年ほど前、財政が非常に逼迫していた。市の周辺には原子力関連施設が集中していることから、安全な中間貯蔵であれば受け入れようとなった。

【Q】しかし関電の使用済み核燃料は受け入れない。

【A】仮に「東北電力の使用済み核燃料を一斉に福井で受け入れてください」と言ったら、そうですかと受け入れますか？ それと同じだ。以前の誘致は新しい産業を興し、持続可能な地域にしていくなという、私たちの希

望と意思があったからやった。今、私たちのそうした思いがない中で物事が決まるなんてことは可能性ゼロだ。



【Q】ほかに安全性などの問題は。

【A】むつ市の施設は沸騰水型原子炉燃料の受け入れ施設だ。関電の加圧水型原子炉燃料は許可を取っていない。

【Q】地域の将来が大切だというのは、福井の立地自治体とも共通する。

【A】福井県を訪れたとき、雰囲気似ていると思った。立地は産業が脆弱な地域が、エネルギー産業を担おうと立ち上がった。立地自治体の思いは共有できる。福井の原発が再稼働することは、コロナの経済対策でも非常に重要だと思う。

立憲民主、むつ下北地域支部設立へ！
衆院選では、県内3全小選挙区、
県議選では10議席以上をめざす

衆院選全選挙区 勝利へ結束誓う

立憲青森県連
初の定期大会

立憲民主党青森県連は18日、設立後初の定期大会を青森市で開いた。次期衆院選での全選挙区勝利に向けた態勢づくりと、候補者が決まっていらない2区の擁立を速やかに行うことを盛り込んだ2021年度活動方針などを全会一致で承認。党勢拡大へ結束を誓った。社民党から合流した地方議員も含め、20人が参加。



設立後初の立憲民主党青森県連の定期大会であり、さつする田名部匡代共同代表

18日、青森市

来賓として連合青森の塩谷進会長が出席した。

冒頭のあいさつで、共同代表の田名部匡代参院議員は「無責任な政治を変えなければならぬ。2区も早く候補者を擁立し、勝利に向け態勢を整えたい」、山内崇氏は「それぞれ違いはあるが、政策なども風通しよく議論した上で決めていき、期待してもらえぬ県連を目指す」と述べた。

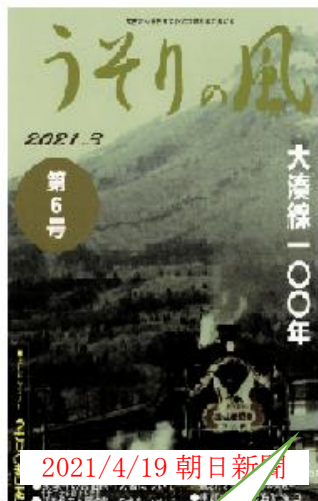
大会では、衆院選の取り組みや地方統一選を見据えた候補者発掘など4項目の活動方針、21年度予算など6議案を承認した。

大会に先立ち行われた幹事会では、衆院選の県連選挙対策本部設立を決め、本部長に田名部参院議員、幹事長に鶴賀谷貴県議が就任。八戸市、十和田市、むつ市、青森市、弘前市で地域支部を立ち上げること

2021/4/19 デリー東北

大湊線100年 時代越え走る

下北・郷土史研究会 地域誌で特集



2021/4/19 朝日新聞

疫病で開通遅れ・延伸頓挫・軍事利用

野辺地駅（野辺地町）と大湊駅（むつ市）を結ぶJR大湊線が、今年で開通100年を迎える。下北半島の郷土史を研究するグループ「うそりの風の会」が、詳細な年表と今昔がわかる写真をふんだんに使った特集記事をまとめ、地域誌で紹介している。

グループの会長で、むつ市内で燃料販売店を営む祐川清人さん（75）によると、大湊線は1916（大正5）年に着工した。18年から19年にかけて「スペイン風邪」が流行して労働力が不足し、当初の見込みより完成が遅れたものの、21年に全線開通した。

当初は小型の蒸気機関車が列車を牽引。明治時代には佐井村まで延伸する計画もあったが、日清戦争で経済が疲弊したため、頓挫したという。60年にはディーゼルカーが導入され、近年では2010年に駅舎がリニューアルされた。

祐川さんが大湊線に興味を持ったきっかけは、インターネットで入手した1冊の古書。1922年に当時の鉄道省がまとめた報告書「軽便鉄道大湊線建設概要」だった。

「軍事的に使われていたことなど、これまで知らなかった。」

特集記事が掲載された地域誌「うそりの風 第6号」は、県内の主要書店で販売している。問い合わせは工藤さん（0175・34・9786）。（安田琢典）

全方位汽笛一声 原爆忌

柳谷かなめ

【出典】 かもしか川柳文庫第68集『SL慕情』（二〇〇三年）

【鑑賞】 漢字十字に凝縮した思い。それは作者の少年時代にはじまる。「汽笛一声で汽車が動きだすと私たちは一生懸命目の丸を振った。兵士たちは静かに走る車窓から身を乗り出して手を振って応えてくれた。その中の何人かの兵士の涙を見た。少年の私はなぜか涙の思いが分らなかった。」その後、少年は機関士への夢がふくらむ。昭和19年国鉄大湊機関区の庫内手を振り出しに機関助手、機関士となつてSLの汽笛をみずから鳴らす。出征兵士の涙の思いがわかった今「全方位」へ向けて戦争のむなしさを訴え続ける。

【略歴】 やなぎや・かなめ

一九三〇（昭五）年、青森県大湊町（現むつ市）生まれ。昭19年、国鉄大湊機関区庫内手採用。昭37年、当時最大のSL基地、青森機関区に転勤、機関士拝命。昭39年大湊運転区に転勤。気動車運転士として昭60年退職まで勤務。全国鉄川柳人連盟会員。機関車文学会員。田名部川柳社同人、下北川柳社同人、かもしか川柳社幹事。

【作品】 SLの火粉 銀河にふれで散る

SLの吐息と眠る乗務宿

うなされる夢 機関車が止まらない

ほんとうに線路に遊ぶ子を叱る

出向の拳の中に妻が居る

ヘッドライト 生の限界まで照らし

本棚の隅っこ思想まるくいる

夕刊を開くとかすかなる軍歌

反核に座す石ひとつ減りふたつ減る

妻の足袋白く小さなまま乾き

新聞で記事を見つけ、早速書店へ買いに行ったものの売り切れ、事務局の工藤さんに問い合わせたら村井書店（大湊地区）にあるとのことでした。記事は他にも竹浪和夫氏の笹沢魯洋伝記や山田勝仁氏の奥戸地区の歴史などが掲載されています。

むつ市大畑町・佐井村

県道葉研佐井線 改良完了8月めど

青森県は21日の県議会建設常任委員会で、むつ市大畑町と佐井村を結ぶ県道葉研佐井線（20・4キロ）の道路改良工事について、8月ごろの完了を目指していると明らかにした。5月15日に冬季閉鎖を解除して一般車両が通行できるようにするが、一部区間で舗装工事を続ける。

同路線は電源開発（Jパワー）が大間町で建設を進める大間原発で災害が発生した場合の避難路。下北地域広域避難路確保対策の一環で整備されている。県は2011年度に「1・5車線化」と舗装工事に着手。18年度秋から全面通行止めにして重点整備してきた。本来は20年度完成予定だったが、路肩崩落の発生などで工期がずれ込んだ。（橋端智和）

大湊線の記事を読んで、ふと、JR 機関士だった元動力車労組大湊支部の故柳谷要委員長の川柳を思い出しました。標題の句は当時大きな反響を呼びました。

（このページは三省堂「現代川柳鑑賞事典・現代川柳 250人の精鋭」の中の1ページです）



一般県道葉研佐井線 1.5車線整備事業

・事業費 36億円
・延長 20.4km 幅員 4.0m